



まなびい掲示板

▶ 高齢者大学総合開講式

高齢者の皆さん、いよいよ学びの1年がスタートします。仲間と共に楽しく学び、あなたの「生きがい」を見つけませんか。

とき 5月31日(水) 午前10時～
ところ 社会体育館

内容 ◆講話
学長 村木登教育長
◆軽体操&レクリエーション
講師 田向良枝さん



《高齢者大学の主な内容》

- ・創作活動 ・研修視察 ・世代間交流
- ・ニュースポーツ体験 ・社会奉仕活動

※参加の申し込みは、地区ごとに取りまとめます。詳しくは、葛巻町公民館（☎役場内線163・164）、または各地区の運営委員にお問い合わせください。

楽しく学んでステップアップ

町民まなびい学園修了認定

生涯学習推進本部（本部長・中村哲雄町長）が開設している「町民まなびい学園」は、子どもから高齢者までの誰もが気軽に参加し、楽しく学習できるシステムです。講座や教室に参加するとポイントが与えられ、30ポイント以上取得すると修了が認定されます。

平成17年度末現在で30ポイント以上取得された17人には、4月29日に行われた町民まなびい学園開講式で、本部長の中村町長から修了証書と記念品が贈られました。修了生の皆さんは、今後、学習ボランティアとしての活躍が期待されています。

修了認定された方々は、次のとおりです。（敬称略、取得ポイント順）

【高校生以下の部】7人

戸花郁弥（江刈小6年）、猫俣知里（葛巻中1年）、府金千秋（葛巻小6年）、遠藤 舞（葛巻小4年）、酒多涼悟（葛巻小3年）、服部柚稀（葛巻小6年）、服部和音（葛巻小5年）

【成人の部】10人

野頭政一（浦子内）、吉澤雅子（下町）、服部与五郎（城内小路）、柳生正春（浦子内）、入月美穂子（浦子内）、林栄子（小屋瀬）、御堂地清子（江刈）、上打田内スミ（茶屋場）、日向啓子（江刈）、小谷地キヨ（小田）

「対戦する3町の名所」

岡山県奈義町



「那岐山」の頂上から見える雲海



鹿児島県上屋久町
樹齢七千二百年といわれる「縄文杉」

北海道苫前町



風力発電施設「グリーンヒルウィンドパーク」

今年で十二回目の挑戦となる「国際チャレンジデー」。毎年五月の最終水曜日に人口規模がほぼ同じ自治体や地域同士で、十五分以上継続して何らかの運動を行った住民の参加率を競い合います。敗れた場合は、対戦相手の町旗を庁舎のメインポールの一週間掲揚するというユニークなルールで行われる、町の威信と名誉をかけた住民総参加のスポーツイベントです。

今年五月三十一日、三町と対戦。中国山地の南麓に広がる岡山県奈義町（人口約六千七百人）、世界自然遺産に登録されている屋久島にある鹿児島県上屋久町（約六千九百人）、風力発電が取り持つ縁でスベシャルチャレンジとして三回目の対戦となる北海道苫前町（約四千四百人）です。

この日は、町内各地で様々なイベントが練り広がります。十五分以内で地域が一致団結してチャレンジデーに臨むことで仲間意識や連帯感が高まり、地域のコミュニティづくりが大きく貢献します。家族や友人を誘って、みんなで参加しましょう。

地域や職場で共に団結

5月31日 国際チャレンジデー



玉入れ競技で和気あいあい（城内小路自治会、昨年5月）

地域の連帯感を高めよう

上運動した方は、忘れずに生涯学習課（☎役場内線一六五）へお知らせください。

公民館図書室から

「100回泣くこと」

中村 航 著

交際3年。求婚済み。年の差なし。ここが世界の頂点だと思っていた。こんな生活がずっと続くんだと思っていた…。



「presents」

角田光代 著

人生の大切な贈りものをテーマに、小説と絵が織りなす珠玉の12編。誰よりも、あなたへのプレゼントです。



「陰日向に咲く」

劇団ひとり 著

落ちこぼれたたちの哀しいまでの純真を、愛と笑いで包み込んだ連作小説。お笑い芸人として活躍する著者のデビュー作。



俳句の楽しみ② 親子で楽しむ俳句

さくら道一年生がよく目立つ
作者は、去年は桜の道を通う大きなランドセル姿の一年生でした。二年生になった喜びと上級生になった誇らしい気持ちがあふれています。下級生への思いやりも感じられます。

わらびたち空に向かって
グーチヨキパー

ワラビの芽が伸びかかった姿です。ぎゅっと丸まった芽は「グー」、少し葉が出かかったのは「パー」、すっかり開いたワラビは「パー」なのでしょう。ワラビの姿を子どもが普段使っている言葉で俳句にしているユーモアがあります。

◆ ◆
最近、小学校のカリキュラムの一環で俳句を教えるようになりました。なぜ今「俳句」なのでしょう。日本の独自の伝統文芸である「俳句」を学んでほしいということが一つでしょう。五・七・五のたった十七文字で、子どもの心にある詩、本当の心をすくい取ることができる詩型であることも一つでしょう。心はいつも発散することで、はつらつと生きてきます。

参考 蝸牛新社「小学生の俳句歳時記」